世界連邦
Newsletter
２０１２年11月28日
第614号

発　行　所
世界連邦運動協会
World Federalist Movement of Japan
〒110-0015　東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 3F
電話（03）6803-2114　ＦＡＸ（03）6803-2117
E-mail: info@wfmjapan.org　Twitter ： wfmjapan
URL: http://www.wfmjapan.org/
郵便振替　00190-6-29964
1 部 100 円（年 6 回　奇数月 1 回 28 日発行）

世界連邦日本国会委員会総会開催
新会長に鳩山由紀夫元総理が就任

11 月 8 日午後 4 時過ぎより世界連邦日本国会委員会総会が衆議院第一議員会館第二会議室で行われた。事務総長・大畠章宏氏の司会でスタート。

《 役員人事 》

中野寛成氏から会長辞任の申し出があった。中野氏は次期衆議院選挙に出馬しないことから、今のうちに次期会長にバトンタッチしておきたいとして、鳩山由紀夫元総理を新会長に推薦、満場一致で可決された。この人事により、世界連邦運動協会会長が海部俊樹元総理であることに加え、世界連邦日本国会委員会も元総理が会長を務めることになった。

鳩山由紀夫氏は、2005 年の世界連邦の衆議院決議の時に当時の森山眞弓会長・井上義久氏、横光克彦氏とともに決議案の提出者になり、また、2002 年に自民党の谷垣禎一氏・公明党の荒木清寛氏など当時の 7 政党の代表で「国際刑事裁判所早期加入を求めるアピール」を行なった時に民主党を代表してアピールするなど、これまでも重要な局面で活躍していた。

鳩山新会長は、尾崎行雄氏・アインシュタイン氏などの思いに触れつつ、世界連邦という究極の理想に向けて、東アジア共同体など一つ一つ具体的な取り組みをしていきたい旨の就任の挨拶を行なった。引き続き谷垣禎一顧問、井上義久副会長から激励の言葉があった。また、この総会に本人が出席してまだ役員になっていない国会議員について役員に加えることになった。

《 参議院決議について 》

サンフランシスコ平和条約発効60周年を機に参議院で世界連邦の文言が入った決議を行う件について、この決議のための実行委員会が結成されていた。その決議文案作成に尽力した猪口邦子氏から、文案作成にあたって尾崎行雄氏の思いを文言に加えたこと、国際機関の強化、国際法の発展、核兵器廃絶を含む軍縮外交などが世界連邦の理想を具現化することである旨、文案に盛り込んだとの説明があり、臨時国会でも引き続き決議成立を目指すと述べた。

《 活動報告・決算・活動計画 》

活動報告と決算報告については、本来は前年度について行うが、本年度は総会開催時期が遅かったこともあり、2011 年度に加えて 2012 年 1 月 1 日から 10 月 31 日までを併せる形で塩浜事務局長が報告。続いて今後の活動計画案につき、尾立源幸氏より、国際連帯税議連との連携、浜本宏氏より「国際司法裁判所の選択条項受諾宣言には完全受諾と不完全受諾の 2 段階があり、日本はカナダ・スウェーデンと異なって取り消し可能な不完全受諾方式を用いている。日本政府にカナダ・スウェーデン式の完全な受諾宣言を求めつつ、未宣言国にはまず不完全受諾を求めるのが良い」などの意見が付された上で議案は全て承認された。　（塩浜　修）

どうやってシリアの暴力を終わらせるか？

WFM-IGP 専務理事　William R. Pace 2012.10.03

WFM-IGP 専務理事 William R. Pace 氏からの書簡です。WFM（世界連邦運動）が取り組んでいることがわかりやすく書かれています。

親愛なる WFM（世界連邦運動）のパートナーとサポーターの方々へ

現在、世界はシリアが内戦に陥り、1 年以上も市民がシリア政府に不当逮捕、拷問、集団処刑、その他重大な人権侵害など統制された暴力行為に直面しているのを目の当たりにしています。これによる死者は約 2 万人と推測され、その数は増え続けています。国際社会はこの虐殺をやめさせる効果的な行動をとることに失敗しています。WFM-IGP はあなたのような個人の支援を得て、常に人道に対する罪を終わらせるために国際的な解決策を模索しています。

WFM-IGP は 70 年間、国際法や人権、平和、社会正義を進展させる制度を強化することに奮闘してきました。シリアのように引き続いているひどい失敗もありますが、近年大きな進展がなされてきました。私たちの平和運動（WFM）は、深刻な危機に対応する手段を作り出し、1945 年以来現実となりえる「悲惨な人道危機」を“二度と起こさない”決意を確実にするための努力を真正面に据えて行なっています。新しい「保護する責任(Responsibility to Protect)」という概念は、国連によって何十年ぶりに達成された、平和のための偉大な手段の一つであると私たちは信じています。「保護する責任」はリビアやケニアの市民を守るための行動に影響を与えることに主要な役割を演じました。もう一つの新しい平和の制度は、国際刑事裁判所（ICC）です。ICC によって、シリアで現在目撃されているような罪で、最も責任のある個人を 訴追することが可能となりました。まだできてまもない制度ですが、ICC は少なくとも世界 15 ケ国の犯罪を捜査しています。

私たちの活動を支援してください。

戦乱のない、市民がジェノサイド・戦争犯罪・人道に対する罪といった恐怖のない平和な未来を確かなものとするために私たちが効果的に国際人道および人権法を強化するグローバルな制度を支援していくことが重要です。新しい法律や制度は、国連安全保障理事会を含んだ、うまくいっていない（国連の）葛藤に対する最大の望みであることを示しています。国連安全保障理事会の主要国間での意見の違いから生じる（国連の）麻痺は、重大な障害が克服されねばならないことを示しています。WFM-IGP はもはや看過できない、機能していない国連安全保障理事会をモニターし、後押しする数少ない組織の一つなのです。

1 年前、コスタリカ、ヨルダン、リヒテンシュタイン、シンガポール、スイスの国連 5 ケ国が安全保障理事会の失敗に対して対抗するイニシアティブをとりました。この“スモールファイブ”もしくは“ S5 ”として知られる 5 ケ国は、国連総会で提案を行い、国連安全保障理事会が機能するための改善案を提示。常任理事国はジェノサイド、戦争犯罪、人道に対する罪を予防もしくは終わらせるため、安全保障理事会が（それぞれ自国の利益により）行動を妨げる拒否権を発動することを控える要請を行いました。WFM-IGP は誇らしいことに、この歴史的なイニシアティブの強力な支援者なのです。安全保障理事会の五つの常任理事国は強烈な圧力を行使してこの決議の採決を延期させました。その一方でロシアと中国はシリアでの行動をやめさせることに拒否権を発動しつづけています。WFM-IGP はこの議題を再提出し採決をとるために努力しています。

私たちの取り組みを支援してください。

リビアを見てよくわかるのは、2011 年に同国での暴力を終わらせるために安全保障理事会によって歴史的にみても素早い行動が取られたということです。安全保障理事会は二つの決議を通して、リビア政府が国民を守る責任について明白に言及し、国際刑事裁判所（ICC）に捜査を付託しました。リビアに関す

る安全保障理事会の他の決定が意見割れし、論議を巻き起こした中で、いかに国連が飛行禁止区域を指定し、S5 決議で述べられたのか。

ムアンマル・カダフィが殺害されたことにより、リビアの人々と世界は、人道に対する罪でカダフィを独立した法廷で責任のある独裁者として捕らえることができなくなりました。しかし WFM はサイーフ・アルイスラム・カダフィとアブドゥラ・アル・サヌーシに対する裁判を（国際的な）法の裁きが確実に追い続けるよう働きかけています。WFM はリビアでこのほど記念碑的な議会選挙が 40 年以上振りに行われ、平和裏に、ほとんど穏健な民主主義者が選出されたことを喜んでいます。リビアとシリアの状況における安全保障理事会と国際社会の対応の違いはわれわれの時代において最も重要な平和の教訓の一つかもしれません。

今日、寄付をしていただければ幸いです。

あなたのような個人からの寛大な支援は、主要な危機において安全保障理事会が犯す失敗にスポットライトをあて続けることができることを確実にし、一方でこうした問題に対して現存する解決策をつくることを助ける上でとても大切です。世界の市民社会組織のネットワークによって、WFM-IGP はこうした課題にうまく取り組むことに成功していることを示しています。しかしそれはあなたの支援を得てこそ可能なのです。 もしわたしたちの活動に対する支援や寄付をお考えであれば（こちらのリンクをお願いします)。

http://www.wfm-igp.org/site/donate

敬具

ウィリアム・ペイス　WFM-IGP 専務理事

（訳　阿久根 武志）

英文原文　http://htl.li/ebgQY

究極の平和“世界連邦” 世界連邦･北海道の年次大会

10 月 6 日午後、札幌市民ホールにて開催。60 余名の参加。会場は終始、熱気に包まれ盛会となった。

基調講演は**「これからの日本　新しい世界をリードする」**との演題で世界連邦日本国会委員会事務局長の塩浜修氏が行なった。氏は、世界連邦とは「国家主権を超えた世界の政治システム」で日本国憲法前文の「われらは全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。」の趣旨を世界全体の枠組みで実現することを目指すものだと強調。その実現は大きな目標だが、我が郷里新潟の雪おろしのように小分けにして見通しをもって進めればできるはず、国会委員会ができているのも、国会決議ができているのもその一歩だ、と述べた。以下、講演内容を要約して紹介する。

その世界的な見通しの四つの柱。その 1 は国連緊急平和部隊(UNEPS)の設置。現在は、紛争や災害の後でそれぞれの国が支援・派遣を検討しているが、これでは火事が起きてから消防車の手配をしているようなものである。あらかじめ国連の下に常設の専門部隊を用意しておくべきである。2006 年に国連が認めた「保護する責任」の趣旨を生かすように、国会委員会で話し合っている。その 2 は足りないお金に対応する国際連帯税。貧困･欠乏に対応するお金は、今 ODA(政府開発援助)に頼っている。これは先進国の GDP の 0.7%を出す建前だが、目標通りにはいっていない。世界のための独自財源がいま工夫されつつある。国際航空券に課税し、それを途上国のエイズ・マラリア・結核対策に充てる航空券連帯税は、既に一部で始まっている。また、外国為替取引は今無税だが、その一年間の世界の総額は 770 兆ドル、これを 1 万円札の束にして積み上げると、なんと月にまで達するほど。そのうち貿易実額は 16 兆ドル。過度な国際投機に 0.005%の税を課すグローバル通貨取引税も論議されている。しかも、その国際的資金を公正･確実に運用するユニットエイド(UNITAID)という仕組みも工夫されている。その 3 は民主的に世界民の意志を結集する世界議会づくりの一歩としての国連議員総会の構成。国連総会は各国政府が任命した人で構成されている。この国連総会の補助機関として、各国国民に選ばれた議員による国連議員総会を創る運動が進んでいる。それは国連憲章 22 条により

国連憲章を改正せずに可能。その 4 は国際司法の改革。いまの国際司法裁判所(ICJ)は両者が応じないと裁判にならない仕組み。殴られた方が訴えても殴った方が裁判は嫌だと言えばおしまいになるような仕組み。それで訴えられたら裁判に出るという選択条項受諾宣言（規程 36 条 2 項）を広げる運動。これは今年の総会で世界連邦・北海道からの提案があり、その方向に進めるよう検討中。ICJ のもう一つの欠陥は対象が国家だけであること。国家を牢屋に入れたり、死刑にしたりするなどできない。個人を対象にする裁判所が平和にはぜひ必要。その必要を満たす国際刑事裁判所が 2002 年にでき、2007 年から日本も加盟し、かけがえのない働きをしている。

2005 年 8 月 2 日の世界連邦国会決議の成立には奇跡的な一面があった。国会法に会期不継続の原則があって、どんなに整備された案でも会期切れになるとスタートに戻される。当時、郵政解散直前。国会委員会の二人の副会長、河野洋平先生と中野寛成先生がたまたま衆議院の議長・副議長になっていたのも幸いし、8 月 2 日に決議実現。5 日には参議院で郵政法案否決。8 日衆議院解散。本当に危なかった。

世界連邦宣言自治体全国協議会が実施した中東和平プロジェクトのエピソードについても語られた。(中略)

塩浜氏は桑原前事務局長が 80 歳代後半の身でボランティアに徹しておられるのに感動し、国会委員会を手伝うことを始め、次長になり、後をついで事務局長を務めることになった。

日本は宗教的にも広い寛容の国。エルトゥール号遭難、シベリアのポーランド人救出輸送、ベルギーの中立支援、第一次大戦後世界の人種差別撤廃条項を提案するなど、人道の素晴らしさを示した国。ペリーを探求の態度と勤勉で驚かせた国。そして今、日本は新しい世界秩序、世界連邦実現を先導する国として期待されている。憲法には「日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目

的を達成することを誓う。」とある。

休憩の後、**「世界連邦構築を急げ　カオスから新秩序を生み出すために」**をテーマのフォーラム。コーディネーター　日色無人（（株）ジーン社長）、隆久昌子（はちどりクラブ世話人）「新しい世界を想う女性の視点から」、本間富雄（札幌学院大学名誉教授）「混沌の現状と新しい秩序」、荻野忠則（元北海道女子短期大学教授）「全人類の宗教的和解 精神文化の源流“ともいのち”」それぞれ簡明なお話。（中略）

女性の情熱、男性の論理、宗教的雰囲気を堪能した後、日色 が「世界連邦実現をみんなが望むのに、なかなかできない二つの壁、(1) 国家主権絶対　これは乗り越えようの声が通りそうな気がしてきた。(2) 軍事産業　これは厄介。儲かるのみでなく、生活を豊かにした技術、例えば飛行機もコンピュータもディスプレイも命守る軍事技術から生まれたもの。克服できるか。」と問題提起。論議や質疑応答が活発。

総合司会松藤から有力な「地球連邦憲法案」の紹介があり閉会式に。大会アピールを採択。

荻野代表は挨拶の中で　残された軍事産業克服という課題について一言。国家主権の軍の体制を卒業させて、軍でない世界警察と地球災害救援部隊に進化させるのが世界連邦実現の必須の課題と述べ、隔絶した軍事力をもち産軍複合体と呼ばれるアメリカの状況を踏まえ、世界完全軍縮を伴う世界連邦にアメリカを誘うことができなければ世界連邦は実現できないが、どうしたらアメリカをその気にできるかと問う。それができるのは日本が自衛隊とその運用費をそっくり世界連邦実現機構に提供する決意からだと私は突き詰めていると訴えた。　（荻野 忠則）

本 部 と 支 部 の 動 き

10 月　6 日　世連ﾑｰﾌﾞﾒﾝﾄ北海道 2012 札幌市民ﾎｰﾙ
演題：“震災復興”から見えてくる未来。

10 月 20 日　四国ブロック大会　高松テルサ 3F

10 月 26 日　本部第 2 回理事会　衆議院第二議員会館

11 月　8 日　日本国会委員会総会　衆議院第一議員会館

11 月 10 日　世界連邦 21 世紀フォーラム講演会　日比谷

11 月 10 日　石川県連合会「秋の講演会」、会場：金沢エクセルホテル東急 5 階、講師：木戸寛孝常務理事、

11 月 28 日　第 34 回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者鎌倉大会　鶴岡八幡宮　（日本宗教委員会主催）

※11 月 29 日 大阪なにわ支部総会は延期になりました。

12 月 1 日 京都支部講演会 南禅寺 龍渕閣 ﾘﾝﾀﾞ･H 氏

12 月 1 日 10 時半　青梅支部講演会　塩浜修氏

環境とエネルギーで協同を
シルジェン氏が連続講演

賀川豊彦の伝記を書いたことでも著名なアメリカのロバート・シルジェン氏が9月、徳島市で講演した。この人は全米最大の生協だったバークレー生協の広報誌の編集長だったが、現在は環境問題を取扱うSierra Clubの機関誌編集長である。

賀川豊彦の縁で2012国際協同組合年のイベントとして招聘されたシルジェン氏は、東京、神戸、徳島で「環境・エネルギー問題と協同組合」と題して連続講演し、かつては生活者のために協同する組織だった協同組合はいまこそ「環境とエネルギー問題」で力を合わせなければならないことを強調した。

シルジェン氏は「アメリカはすでに化石燃料の確保のためにイラクで戦争をしてしまった。決してイラク国民の解放のためではなかった」と断言し、「第二次大戦すら日本とドイツがエネルギー確保のために始まった」と述べた。

賀川豊彦の『Brotherhood Economics』(友愛の政治経済学)については「いまこそ読まれる本である」、「日本語訳が最近ようやく出版されたことを日本に来て知って驚いた。もともとアメリカで協同組合運動を広めるために渡米中の船中で書いた」、「1930年代に世界経済が破綻したとき、資本主義でもない、共産主義でもない第三の道を模索した」、「Brotherhood というクリスチャンの教えを実践に移そうとした」などと高く評価した。

協同組合の第一にやるべきことは「Save Energyの教育だ」と強調。「省エネを第5のエネルギー源と位置付けるべき、20%の省エネをやった友人がいる。できるということである。日本の原子力の依存度が26%であると聞いている。20%の削減は原発の発電量に相当する」とした。

次いで「再生可能エネルギーの啓蒙」が不可欠だとした。アメリカのBasin Electric Powerという協同組合はノースダコダ州を中心に中西部136の会員協同組合を通じて280万人の消費者に電気を供給している。10%は再生可能エネルギーであり、大半は風力から調達していることを紹介した。アメリカは石油産業と原子力産業を中心とした国家で、再生可能エネルギーに対して消極的であるというイメージがあったが、草の根では日本以上に環境問題に取り組んでいるグループがあることを知らされた。

興味深かったのは Sierra Club が行なっている「Carbon Offset」という啓蒙活動だ。「航空機で移動したとき、その距離で排出する二酸化炭素量に応じて運賃を余分に支払い、スマトラの水力発電やインドでの廃棄物発電の資金にしてもらおうという運動だ。みんなに強要するのではないが、支払いたいという人は決して少なくないのだ」という。発想からいえば、フランスで誕生した国際連帯税と同じだ。

圧巻はエネルギー問題に対するかれらの姿勢だった。「エネルギー問題を議論することはすこぶる退屈なのだが、エキサイティングにする方法がある。楽しみや娯楽にすればいい。つまりエンタテインメント。そのためのコンペがあってもいい」という提言にはうなずかされた。

(伴　武澄)

あなたも世界連邦運動協会の会員になりませんか

入会希望の方は、住所・氏名・電話番号・メールアドレスをお書きの上、郵送またはFAXにて下記の本部事務局へお申し込み下さい。

世界連邦運動協会　〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル3F
電話 (03) 6803-2114　FAX (03) 6803-2117

□普通会員／年額5,000円　□維持会員／年額10,000円　□賛助会員／年額15,000円

第 39 回世界連邦四国協議会総会・四国ブロック大会

10 月 20 日、香川県高松テルサにおいて第 39 回世界連邦四国協議会総会および2012年世界連邦運動協会四国ブロック大会が開催された。

総会は図子泰香川県支部長が司会を行なった。榎本典昭香川県知事公室長、岸本泰三高松市副市長らが挨拶、阿久根武志本部事務局長が海部俊樹会長のメッセージを代読した。

総会では 2011 年度会務報告、会計報告が行われ、次期開催地は徳島市であることが発表された。

午後からの四国ブロック大会には 73 名が参加。公益社団法人セカンドハンド創設者の新田恭子（やすこ）さんが基調講演を行なった。以下はその要約である。

公益社団法人セカンドハンドは、市民からの無償提供品やカンボジアの女性たちが製作したフェアトレード商品などをチャリティーショップで販売し、収益金でカンボジア支援などを行う国際協力団体です。前身は NPO 法人セカンドハンドで、1994 年 5 月、私が高松市内にショップを開いたのが始まりです。現在は香川県内外に複数の店舗・支部があります。学校や医療施設の建設、女性の職業訓練、孤児院の支援などに取り組んでおり、これまでに学校 20 余りの校舎と医療施設 4 棟を建設しました。

私はフリーアナウンサーをしており、セカンドハンドにはボランタリーで関わっておりますが、もともとこうした活動をはじめるきっかけは、イギリスで知ったチャリティーショップのシステムでした。とくにアイデアを得たのは政策提言も行なっている NGO オックスファムでした。イギリスには 6 千を超えるチャリティーショップがあり、市民団体が活動資金を集め、広報する場として浸透しています。市民が自分には不要なものをショップに提供し、無償で働くボランティアが販売に携わり、売上げを活動の資金に充てる仕組みはわかり易く合理的です。カンボジアで本や教育施設の不足を知り、誰かをあてにするのでなく、自分で始めればよいと気づいたことが活動の始まりでした。社会をよくするのは政治家とかだと思っていたけど、私たちでもできるということに気付いたのです。

最初は手探りではじめましたが、徐々に協力者も現れ、空き店舗を安く貸してくれる方、無償提供品の仕分けをしてくれる方、さまざまな方の協力を得て規模が拡大して参りました。

カンボジアに関わるきっかけはさきほど述べた通りですが、日本人が便利になって忘れてしまったものがカンボジア人の生活様式にあると思います。彼らの学習意欲は物凄いものがあります。そして日本人よりうまく英語を駆使していることに衝撃を受けます。日本人はたくさん学ぶチャンスがあるのに、それを生かしていない。現地でスタディーツアーを行なっていますが、そこでの経験を得たある女子高校生は、学ぶ機会など自分達が普段どれだけ恵まれた生活をしているか、そして家族がいて、安心して暮らせるということに心から感謝する気持ちが湧いてきたと伝えてくれました。

現在は東日本大震災支援も行なっています。9 月 15 日にやっとセカンドハンドの店を被災地につくりました。被災者の方に尊厳と将来への希望をつくることに少しでも関われるのはうれしいことです。ある方はセカンドハンドのコミュニティショップで働いたことで震災以降初めて笑顔を取り戻すことができたと仰っていました。働く場所があるというのは被災者の方にとって大きな意義があります。コミュニティショップはそのほか情報交流の場としても役立っていて、高齢者の方が助成金の情報をここではじめて知ったということもございました。

私たちは恵まれています。私たちがもっているもの、それは時間や、特技や、自分にとっては余っているものなど、そうしたものを少しずつでも出せば役にたつはずです。

どうかその手を貸してください。あなたと家族のために。世界の誰かのために。

基調講演の後、支部報告が行われ、高松支部が 9 月に世界平和記念行事を人類愛善会と共催したこと、松山支部のポスター作文コンクール、平和展への取り組みが披露され、また 3 年後日本大会開催を検討していることなどが報告された。松山支部は松山市と平和祈念行事等で関わりが深いことが支部活動活性化の要因でもあるとのこと。その後、大会宣言がなされ、行事が終了した。

（阿久根 武志）

ユースフォーラム支部の学園祭出展

世界連邦運動協会ユースフォーラム支部長　谷本 真邦

【ユースフォーラム支部の学園祭出展】

私は、3 年前のユースフォーラム設立以来、学生層への世界連邦思想の普及の必要性を考え様々なイベントを行なっている。学園祭への出展もその一つで、今回は早稲田大学の学園祭での活動を報告させていただきたい。

ユースフォーラムとしての初出展は一昨年で、この年は多くの政財界人を輩出している早稲田大学弁論部“雄弁会”とユースフォーラムとの共同企画で、雄弁会のご出身でもある海部俊樹世界連邦運動協会会長を招いて討論会を開催した。またこの会では、海部会長の基調講演のほか、衆議院議員、国連職員、研究者なども招き、学生とともに立場を超えて語り合うシンポジウムを開催し、白熱した議論が展開された。

そして、昨年は、ユースフォーラムのメンバーであり、国際協力ネットワーク絆という学生団体を主宰する早大生の加藤翼君とともに、彼の団体をはじめ、多くの大学の国際協力系学生団体に呼び掛け、共同催事を開催した。

この企画の特徴は、いわゆる模擬店が多く出て大変混雑する、早稲田大学の学園祭において、買ってきた食べ物をゆっくり食べられるスペースがないため、ゆったりとしたフードコートのようなスペースを確保し、そこを取り囲むようにして、学生団体の出展ブースを出し、また前方の演台で学生団体の活動内容を発表するというものである。

この企画は非常に当たり、10 以上の学生団体が参加する共同開催が実現し、当日は国際協力などにあまり関心がない学生たちも、休憩所がわりに会場を訪れ、そこで世界の様々な問題や、各団体のアピールに触れて帰っていく場となった結果、約千名の来訪者でにぎわった。

今年はこの企画の 2 年目であり、『ワールドバザー』という企画名称で、11 月 4 日、早稲田大学の 14 号館 101 という大教室を借りて開催された。抽選で 10 時から 13 時までの 3 時間しか使用できなくなってしまったが、それでも約 500 名の学生が集まり、大いに盛り上がった。

世界連邦運動協会ユースフォーラム自体も企画協賛者としての立場のほか、会場では一つの出展者として、これまで開催したイベントのパネル展に加えて、世界連邦運動のチラシ配布を行い、世界連邦運動を学生たちにアピールした。

世界連邦運動は、若者層にも広めていく必要があるといわれている。そこで私たちユースフォーラムとしては、このような学園祭企画をはじめ、今後も多くの若者が集まる行事を、次々と開催していきたいと考えている。

カナダから送る世界連邦運動への応援歌(3)

マッギル大学教授 太田 雄三

平和憲法を生かすには、世界連邦実現に努力するほかない

『婦人之友』2010 年 5 月号に載った最上敏樹「日本国憲法について」という文章が、芽生えつつある「国際社会にも憲法をもたせよう、という思潮」で国際立憲主義に触れています。国際法が専門の最上氏は、「国際法の世界では更に、部分的にはまだ武力行使を許している国際法を、否戦法（戦争否認の法）体系として組み替える考え方も現れています」と書かれていますが、これなどはレヴィンソンなどの戦争非合法化運動の復活を思わせます。さらに興味深いのは、最上氏が「二人の先達--加藤周一と丸山眞男と」という表題の一節で要約した、加藤周一の晩年の思想が世界連邦主義者の主張と同じだということです。最上氏が挙げている文献、加藤周一『戦後を語る』（かもがわ出版、2009 年）に、「ちょうど、国内で国家が私的暴力を吸収するように、主権国家の主権を制限し、暴力を国際的機関に吸収する。もちろん、すぐにそのような世界政府ができるとは思わないけれど、そういう方向を辿らざるを得ないのではないか」という言葉があります。加藤周一によれば、どうしても必要な戦争廃止のために辿らざるを得ない方向というのは、その方向を指し示している憲法の前文と第九条です。ただ、それはまだ実現はしていません。その意味では、加藤周一の主張も、平和憲法を生かそうとするならば世界連邦実現のために努力するほかない、という主張とほぼ重なると言えそうです。

私達の時代の重要なキーワー ドには既に触れた「共生」の外に、グローバリゼーションもあります。およそ、150 年前に日本は開国しましたが、グローバリゼーションは、一国単位ではなく、世界規模での開国みたいなものです。開国で日本は近代国家になれたのですが、開国がもたらしたものはいいことばかりではありませんでした。「美術や古くからの文化や習慣を愛する人々にとって貴重な多くのものが失われた」と明治初期から三十数年にわたって日本に住んだイギリス人が書いています。グローバリゼーションもいいことばかりではありません。加藤周一はこの語を説明して、「実質的な内容は自由市場、ことに関税の自由化は、世界中を先進国が支配しようという陰謀のようなものです」（『戦後を語る』）とまで言っています。

グローバリゼーションはまた、英語の重要性が過度に強調され、自国の言語や文化が軽視されて、世界の文化が全体として貧困になっていく時代をもたらすかも知れません。しかしながら、好むと好まざるとにかかわらず、地球大の統合が少しずつ進行しているこの時代は、インターネットをふくむ通信手段と交通の発達で、世界の出来事を以前より遙かによく知ることができます。NGO 活動の発展などは、ランファルが望んだような、よい意味での世界市民的意識も育っていることを示しているようです。そのことは、平和問題に地球環境問題などが加わって、世界連邦運動が担うべき課題の重さが増えた分、その担い手、ないしその賛同者も増えているのではないかと思わせます。人類の命運に関わる大問題について、加藤周一の言葉を借りれば、「この方向にしか出口はない」方向を目指している運動として、世界連邦運動は重要な、普通の人間の支持に十分価する運動であると私は思います。

（終わり）

編集後記 ☆高松での四国ブロック大会は、四国のみなさんの心意気を感じる大会で、新田恭子さんの講演も素晴らしかった。（阿久根）☆若い谷本さんをはじめ、幅広く原稿が集まって嬉しい。次回は 1 月 28 日発行。12 月末まで皆様からの投稿をお待ちしております。（塩浜）☆尖閣列島をめぐる日中の確執が止まらない。それどころかエスカレートしている。本当に衝突する可能性があることを心配する。世界連邦は平和運動である。社会に対する訴えと行動が不可欠だと思い始めている。（伴）